

高温・台風対策編

向こう1ヶ月は高温となる確率が80%、台風にも注意を

- 8月22日発表の1ヶ月予報(8月24日～9月23日)によると、気温が平年より高い確率は80%となっています。また直近の2週間予報(下図)によると、台風通過後の31日以降も34℃と高い気温が続き、特に9月4日以降夜温がかなり高くなる予報となっています。登熟期間中、高温が続くと胴割粒や白未熟粒の発生による品質低下が懸念されます。
- 8月に入って発生する台風が多くなっています。現在、台風10号が発生し、30日には山梨県に最接近する予報となっています。特に8月と9月は月に5つ以上の台風が発生するといわれており、この時期は海水温が高いため強い勢力を保ったまま上陸する危険があります。



連日の高温で胴割・白未熟粒発生の恐れ、水管管理徹底を

- 出穂後の高温下では、きめ細やかな水管管理を行ってください。特に今年は、梅雨明け以降、猛暑日でない日が4日しかなく、熱帯夜も25日以上と記録的な高温であるため、出穂後30日より前に早期落水しないでください。
 - ① 出穂から30日後までは落水せず、間断かん水(2日湛水、2日落水)または飽水※管理として、気温の低い朝夕の用水交換で水温・地温を低下させてください。
※飽水…地表には水がないが土には十分に水が含まれている状態。(足跡には水が溜まる)
 - ② 出穂30日以降も高温で経過する場合は、完全落水せずに収穫の5日程度前までは走水程度の飽水管理とし、健全な登熟を促しましょう。
- 台風による強風雨やフェーン現象の恐れがある場合は、次のような対応を取ってください。
 - ① 強風が吹く前に湛水管理に切り替え、強風が去った後は速やかに間断かん水または飽水管理に戻してください。
 - ② 事前に排水路の点検、補修、ごみを除去しておき、水口と排水路をふさぎ、水の流入を防ぎましょう。
 - ③ 収穫が近い場合は、倒伏や穂発芽を防ぐため、やや早くても収穫してください。(収穫時期の5~7日前の収穫は、収量・品質への影響はほとんどありません)

NOSAI 山梨 山梨県農業共済組合 <https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所 TEL:0553-22-5056
 ■南アルプス支所 TEL:055-282-0443
 ■本所 TEL:055-228-4711

■北部支所 TEL:0551-23-1111
 ■富士支所 TEL:0554-45-6611